

「美濃加茂市教育振興基本計画（案）」意見募集結果

1. 目的

教育の振興に向けた施策を総合的、計画的に進める

2. 実施期間

平成26年1月10日（金）～ 2月10日（月）

3. 周知方法

- (1) 広報みのかも 2月1日号にパブリックコメントの実施について掲載
- (2) 市役所分庁舎3階 教育委員会学校教育課で計画（案）の閲覧実施
- (3) 市ホームページに計画（案）を掲載

4. 意見の提出状況

- *意見提出者 2名
- *意見提出件数 2件

5. 提出された意見と市の考え方

<ご意見1>

該当箇所	特別支援教育
意見内容	<p>多様な感性に富む人格形成は、幼少の頃に多様な体感を得ることで育つ面があります。現在の日本は、児童の特性を伸ばすため、障がい児において、分離教育を選んでいきます。その善し悪しは複雑な課題が多くありますが、分離教育でも統合教育ない教育の場を求める声がございます。</p> <p>1年に何回か、普通学校の生徒と、特別支援学校の生徒が、一緒に遊ぶ日を設けることで、同じ年代で、自分たちだけではないまた違う自分たちも居るんだという認識の素地が生まれると考えられています。</p> <p>北原美代子氏がおみえのようなので、そのあたりの素案も織り込み深めることが十分可能だと考えます。ご一考頂ければ提出の甲斐があります。</p>
ご意見に対する市の考え方	<p>特別支援学校と小中学校の交流については、特別支援学校に在籍する子どもが居住する地域の小中学校で交流を行う「居住地校交流」を積極的に進めます。FROM-0歳アクションプランでは「また、特別支援学校に在籍する児童生徒が居住する地域の小中学校で学ぶ交</p>

	<p>流及び共同学習を積極的に推進します」と記述しております。「特別支援学校に…」の前に『障がいのある児童生徒に対してより適切な教育的支援を行うとともに、障がいのある児童生徒とない児童生徒が互いの違いを認め合い、支え合おうとする態度を育てるために』を挿入します。</p> <p>特別支援学校と小中学校との交流の方法には多様な形があると思います。市内に可茂特別支援学校があることから、交流には今後も積極的に取り組んでまいります。</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<ご意見2>

該当箇所	特別支援教育
意見内容	<p>メディアの会長様の会見での発言が国内外で話題になっています。意識改革が特別支援教育に関係する方々、教育・福祉・企業等すべての人々に必要です。少子化の中、支援を必要とする多種多様な児童生徒、社会人がますます増加しています。個々への支援体制はネットワークの構築なくしては現実のものとはならず、紙面上、机上だけのことで終わってしまいます。強い絆の基盤であるネットワークづくりに奔走するスタッフ、現場を知る人々のチームが動く環境がぜひあってほしいと思っています。ノーマライゼーションは意識の一致から。木曾川流れる美濃加茂市が絆・共同できる地として成長してほしいと願う一人です。</p>
ご意見に対する市の考え方	<p>特別支援教育においては、学校、市、県が多様な研修を実施し、一人一人の職員の資質向上を図るとともに、就学指導委員会を中心に保護者、学校、幼稚園・保育園、特別支援学校、医療、福祉等、関係者が連携して障がいがある児童生徒の支援に取り組んでいます。また、市では教育や福祉、保健等の関係機関が連携し、就学前から中学校卒業程度までを対象とした相談機関である発達支援センター（仮称）設立の取り組みを始めました。今後も、美濃加茂市の支援体制の整備に向けて積極的に取り組んでまいります。</p>